

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 3 区分

【発行日】平成 23 年 12 月 8 日 (2011.12.8)

【公表番号】特表 2010-521576 (P2010-521576A)

【公表日】平成 22 年 6 月 24 日 (2010.6.24)

【年通号数】公開・登録公報 2010-025

【出願番号】特願 2010-500175 (P2010-500175)

【国際特許分類】

C 0 8 L 21/00 (2006.01)

C 0 8 K 5/375 (2006.01)

C 0 8 L 63/00 (2006.01)

C 0 8 K 5/3435 (2006.01)

C 0 8 J 3/20 (2006.01)

C 0 8 K 5/00 (2006.01)

C 0 8 K 3/00 (2006.01)

【 F I 】

C 0 8 L 21/00

C 0 8 K 5/375

C 0 8 L 63/00 A

C 0 8 K 5/3435

C 0 8 J 3/20 C E Q Z

C 0 8 K 5/00

C 0 8 K 3/00

【手続補正書】

【提出日】平成 23 年 10 月 24 日 (2011.10.24)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

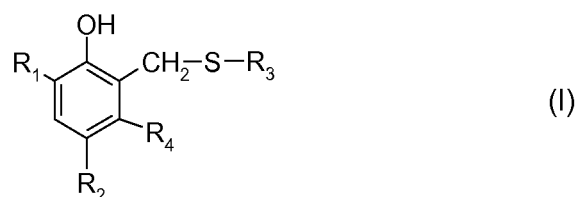
【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

ゴムコンパウンドの製造のための改良された方法であって、ゴムの質量に基づいて、式 I

【化 1】



[式中、 R_1 は、水素、 $C_1 - C_{20}$ アルキル基、スチリル基、 $-$ メチルスチリル基又は $-CH_2-S-R_3$ ；又は $C_2 - C_{20}$ アルケニル基、 $C_3 - C_{20}$ アルキニル基、 $C_5 - C_9$ シクロアルキル基、フェニル基又はトリル基により置換された $C_1 - C_{20}$ アルキル基であり；

R_2 は、 $C_1 - C_{20}$ アルキル基又は $-CH_2-S-R_3$ であり、

R_3 は、 $C_1 - C_{20}$ アルキル基；フェニル基、ヒドロキシル基、シアノ基、ホルミル基、アセチル基又は $-O-CO-R_5$ により置換された $C_1 - C_{20}$ アルキル基； $C_2 - C_{20}$ アルケ

ニル基、 $C_3 - C_{20}$ アルキニル基、 $C_5 - C_9$ シクロアルキル基；又はヒドロキシル基、フェニル基、4 - クロロ - フェニル基、2 - メトキシカルボニルフェニル基、p - トリル基、1, 3 - ベンズチアゾール - 2 - イル基、 $-(CHR_5)_nCOOR_6$ 又は $-(CHR_5)_nCONR_7R_8$ により置換された $C_5 - C_9$ シクロアルキル基であり；

R_4 は、水素又はメチル基であり、

R_5 は、水素又は $C_1 - C_6$ アルキル基であり、

R_6 は、 $C_1 - C_{20}$ アルキル基；酸素又は硫黄により中断された $C_3 - C_{20}$ アルキル基； $C_5 - C_9$ シクロアルキル基、フェニル基、ベンジル基又はトリル基であり、

R_7 及び R_8 は、互いに独立して水素又は $C_1 - C_6$ アルキル基であり、及び

n は1又は2である]の加工安定剤0.1～2%の量の存在下で125～200 でゴム及び成分を配合することを含む方法。

【請求項2】

R_3 が $C_6 - C_{18}$ アルキルである、請求項1に記載の方法。

【請求項3】

R_1 がメチル基であり、

R_2 が $-CH_2-S-R_3$ であり、

R_3 が $C_8 - C_{12}$ アルキル基であり、及び

R_4 が水素である、請求項1又は2に記載の方法。

【請求項4】

該成分が、顔料、染料、充填剤、均展助剤、分散剤、可塑剤、加硫活性剤、加硫促進剤、加硫剤、電荷制御剤、付着促進剤、帯電防止剤、金属酸化物、抗酸化剤及び光安定剤からなる群から選択される、請求項1から3までのいずれか1項に記載の方法。

【請求項5】

該成分がエポキシド化大豆油及び/又は2, 2, 6, 6 - テトラメチルピペリジン - 1 - オキシルである、請求項4に記載の方法。

【請求項6】

該配合が150～200 で行われる、請求項1から5までのいずれか1項に記載の方法。